

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを理解しており、事業者独自の理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス時や日々の業務の際に再確認し、日々のサービスに反映できるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各居室や事業所内に理念を掲示し利用者や家族に理解して頂けるよう努めている。	○  地域の方々が理念を目にする機械が殆どない為、今後地域の方にも理解して頂けるように努めていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入り、町内の行事に参加出来るよう運営推進会議でも働きかけている。また、ホームを理解してもらおう為、パンフレットの配布を行った。以前より散歩等で近隣の方々とのお話や交流が増えてきているようである。	○  認知症に関する普及活動、説明会等が行えていない為、町内の方との交流を深め、理解して頂けるように努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価や外部評価の意義を理解し、より良いサービスの提供に取り組めるように努めている。	○	少しずつ改善されてきているが、これからもっと評価のねらい等を深く理解し、より良いサービスの向上に取り組んでいきたい。
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議は二ヶ月に一度開催しており、民生委員や町会長、家族、市町村に参加を促している。ホームでの取り組みや家族、地域の方々の思いを話し合っている。	○	もっと、積極的な意見交換ができるような場にしていきたい。また家族の出席率が悪いので改善していけるよう努めていく。
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者への広報紙・パンフレットの配布をし、ホームを理解して頂けるよう努めている。運営推進会議への参加依頼や、情報交換の機会も作っている。		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	地域権利擁護事業や成年後見制度について全職員が十分理解しているとはいえないが、内部研修を予定しており知識を深めていきたい。		
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	職員は高齢者虐待法に関する理解を深め、虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、理解を得ているが、分からなくなったり不安等が生じ、面会時等に質問等があった時はその都度説明を行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員が利用者からの意見や苦情等が表しやすいよう、居室で話を聞いたり、皆がいる中で話をしながら意見等を求めたりしている。又、話を聞いた管理者及び職員は全職員に話が伝わるよう申し送りやカンファレンス等の時に話し合いをし、対応を行う体制を整えている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回ユニット便りを配送している他、面会時に状態報告や出納帳の確認・領収書を渡したりしている。また、急な体調不良等の状況見られた時は随時電話での報告を行っている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受付窓口を設けている事や市町村、国保連にも相談窓口がある事を説明している。また、管理者や職員が情報を得た場合は、話し合いをし解決できるようにしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は随時受付し、聞く機会を設け運営に反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	大きな行事の際は日常より多くのスタッフにて対応している。職員の急な休みに対しても、勤務変更し対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が異動したり、新しい職員が入った際は利用者に十分説明を行い、ダメージを最小限に抑えている。また、新しい職員、異動してきた職員には詳しく引き継ぎを行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は積極的に取り入れ、勉強できる機会を確保している。内部研修に関しては外部より講師を迎え研修会を開催したり、月一回のカンファレンス時に研修を行っている。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており外部研修の参加機会を作ったり情報を得ている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が、職員の相談を受け、日頃抱えている業務上の悩み等の解消に努めている。リーダー会議があり、管理者はそこで問題や意見を出せるようにしている。事務所を兼ねた和室の休憩室がある。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場の勤務状況を把握している。年2回の健康診断を実施し、心身の健康を保つよう努めている。また、個々の資格を活かせるように配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に利用者や家族から話を聞き、希望や意向等を把握するよう努めている。話しにくかったりしている時はこちらからアプローチして話を聞き出すようにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの意向を十分に踏まえ、希望に沿った支援を見極めて対応を行っている。すぐに対応できない時は方策を検討し、徐々に支援していけるように努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族等の双方の意見を聞き、安心して生活していけるよう、職員・他利用者と共に雰囲気を作り、徐々に馴染めるよう努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に日々の生活を楽しんだり、一緒に考えたりし、また職員が利用者に支えられたり教えられたりとお互いに必要で大切な存在だという関係を築いていけるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に職員は家族に利用者の状態を伝える他に家族の意向等を聞き、一緒に利用者を支えていく関係を作るように努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族のこれまでの関係や双方の思いを職員は理解し把握に努めている。また、利用者の日々の様子を面会時や電話等で伝える他、気軽に訪ねて来れるように努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の方にも気軽に面会に来ていただいたり、電話等で連絡できるように支援を行っている。また、希望に応じて利用者にとって馴染みの場所や知人がいるところに行けるよう、職員もしくは家族の協力を得て支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、孤立しないように職員が間に入ったりしながら支え合って生活していけるように努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も利用者や家族との築いてきた関係を継続するように努めており、利用者や家族にもその旨を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望等を聞き、本人の立場になってみて意向の把握に努めている。把握が難しかったりした時は家族から情報を得て把握出来るように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や個性等、利用者本人及び家族から情報を得て把握している。普段の生活でも活かせるように利用者のプライバシーに配慮しながら、家族の他親類や知人からも情報を得ている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者一人ひとりの生活リズムや暮らし方、出来る事、分かる事等を把握し、変化を見逃さないように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者及び家族等の意見や希望に基づき作成されている。また、カンファレンスにて話し合い、職員の意見も取り入れている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間を明示しており、期間終了後は見直しを行っているが、状態変化等が見られた時はその都度見直している。介護保険の更新時も新たな介護計画書を作成している。利用者や家族等の意見の収集を行い、アセスメントを行うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や身体状況等について個人ケースに記録の他、申し送り(日誌)にも記載している。介護計画の見直しに活かしているが、もっと細かく記録していけるように努めていく。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の援助をドライバーとユニットスタッフで行っている。入居者が重度化した場合、ご家族の希望に応じて、法人内の有料老人ホームへ入居できるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア団体とへ協力を呼びかけている。近くに町内会館等があるので、活用できるよう町内会長や民生委員等への働きかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行なっていないが、運営推進会議に出席していただいております。必要なおき、相談できる体制になっている。	○	事業所内で解決できない困難な事が出てきた時、地域包括支援センターと連携し長期的なケアが行えるよう協働し対応していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>職員は利用者が別の場所に移り住む事のダメージを理解し、家族及び移行先へ十分な話し合いや情報交換を行い、ダメージが最小限となるように努めている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>利用者へのプライバシーの配慮や声掛けには十分に注意し対応していけるよう努めている。個人情報情報は利用者及び訪問者の目の届かない所に保管行っている。</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者の状態に合わせ説明や声掛けを工夫し意思表示できるよう努めている。普段の状態を把握し、こちらからも選択肢を複数出し自分で選べるようにしている。</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>利用者が何か希望を伝えたい時は急がせず、ゆっくりと落ち着いて話せるよう、職員の方もゆっくりと話しかけたり、聞く体制を心掛けている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>衣類や整容の乱れは職員の方でさりげなくサポートし、自分らしいおしゃれが出来るよう支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に何が食べたいか聞いたり、季節の食材を取り入れたりしている。また、利用者から作り方を教わったり、一緒に調理を行ったりもしている。毎食時、職員も一緒にテーブルに着き、会話を楽しみながら食事をし、後片付けを行っている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の状態に配慮しながら、本人が望む嗜好品を楽しめるように支援している。		
53	○気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った声掛け、誘導を行っている。また、常に利用者の羞恥心やプライバシーに配慮を心掛けている。パット類を使用している利用者は普段の状態、尿意・便意の有無等、職員間で話し合いをし使用の見直しを行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞き、羞恥心に配慮しながら入浴を支援している。一人ひとり入浴時間が違うので本人に確認しながらゆっくり湯舟につかって頂いている。拒否が見られる時は職員を変えてみて声掛け行ったり、時間をずらしてみる。それでも拒否される時は次の日に入浴を促したりしている。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	受診や活動、面会の後など、本人の状態を見極め休息するよう支援している。夜間の睡眠状態、日中の状態を把握し家族及び担当医と相談し、眠剤を服用したり、薬の量の調整も行っている。寝付けない利用者は無理に寝せず、職員が話し相手になったり、水分等を促し、様子を見てから眠れるように促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が慣れ親しんだ作業を行って頂いたり(草取りや調理等)、職員と一緒にいき教わったりしている。また、一人ひとりの状態に合わせて、その日の役割を決め行って頂けるよう促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に金銭の方は管理者が行っているが、家族及び本人の強い希望でお金を持っている利用者は管理者の方で本人了解の下、いくら持っているか確認行っている。買い物時の支払いも職員が助言を行ったりし自分で支払ってもらえるように支援している。</p>		
58	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者が買い物に行きたい場所や行ってみたいと思っている所に外出出来るように努めている。</p>		
59	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者に行ってみたい所を聞き、全員で出掛けたり、個別に行きたい所(主に自宅等)は家族の協力を得て一緒に行って頂いたりしている。</p>		
60	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者が手紙や電話を利用する際は職員の方でも希望通りに行えるように支援行っている。手紙等が届いた時は居室で渡すようにし、電話の時、利用者望めばスタッフルームの方に入り、会話内容が聞かれないように考慮している。</p>		
61	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間は設定しているが、遠方や仕事の都合等で時間外に来られる場合も対応し面会して頂いている。職員も利用者・家族との会話を行い、居心地よく過して頂けるように努めている。家族より宿泊の希望がある時は寝具や食事の提供をし対応出来る体制になっている。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、行わないという姿勢でケアに努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺が道路で交通量が多く危険な為、玄関及びユニット出入り口、非常口等の施錠を行っている。窓の方は日中は開け夕方に閉めている。施錠に対しては家族にも説明行っており、理解して頂いている。入居者の状況に合わせ、時折出入り口や非常口を開けて様子を見ている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は利用者を見守りやすくかつ利用者からも職員が確認しやすい場所に居るようにしている。目が届きにくい所の居室の利用者には職員がどこに居るか伝えつつ、こちらからも居室の方に様子を伺いに行くようにしている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を見て保管場所を話し合い場所を移動している。金銭及び内服薬や洗剤等は利用者の目が届かない所へ保管行っている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンス及び日々の業務の中で起こり得る事故及び急変への対応・防止・対策を確認している。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルが作成されており、掲示されている。また、カンファレンス等で対応を確認の他、心肺蘇生法や吸引機使用の訓練を行っている。応急手当もユニットに勤務している看護師に教わったりしている。年間の研修計画にも予定されている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は日中・夜間想定で行っている。地域の協力を得られるよう働きかけを行い避難場所を確保している。また、同法人からの協力支援体制も整えられている。	○	地震や水害発生時の訓練も行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時及び状態変化や面会時等に家族に起こり得るリスク及び対応策を説明している。また、職員間でも日々の業務の中で起こり得るリスク等の確認を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックの他、本人の訴えや表情・顔色等の観察を行っている。状態の変化があった際は看護師やかかりつけの医師に相談し、必要時受診している。内容は、受診記録に記載し、申し送りしている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ケースにファイルしており、薬の目的や副作用等の把握に努めている。状態変化等がある時は看護師に相談したり主治医に報告している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす身体への影響を理解しており、食事で食物繊維が多いものを使用したり、水分補給、散歩や掃除等での軽い運動を促し、自然排便が出来るよう工夫している。下剤を内服している利用者は状態を見て薬を減らしたりし、なるべく自然排便が出来るよう促している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	イソジンでの嗽や義歯の洗浄等、一人ひとりに声掛けや一部介助にて対応を行っている。また、週1回～2回ポリデントを使用している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー及び水分の摂取量を概ね把握している。体調不良や注意が必要な人の摂取量を記録している。	○	献立や全体の栄養摂取状況等について、栄養士や専門家からの指導は得られていないため、出来るよう取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、それに基づいて嗽や手洗いの他、次亜塩素酸水の使用にて対応行っている。年間の研修計画にも予定しており知識を深めていきたいと考えている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	次亜塩素酸水やハイター等での調理器具及び布巾・食器類の毎日の消毒を施行。食材も早目に使い切るよう心掛け、食材注文時等に在庫確認、冷蔵庫整理を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外や玄関内に花や観葉植物を置いたりし、親しみやすく、暖かい雰囲気ができるよう工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に確認しながら居心地よく過せるように工夫をしている。ユニット内も季節に合った装飾を行う他、外の景色も楽しんで頂いている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で楽しめるスペースを設けている他、その中でも一人で過せたりする箇所も設けている。また、お互いの居室を行き来し会話を楽しんだりもしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使っていた物等を持ってきても らっているが、後から出た要望には家族に伝え 持ってきてもらったり、本人と一緒に職員が買い 物に行き購入してきたりし、過ごしやすい居室 に出来るよう取り組んでいる。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ホール内に温湿度計を設置し温度確認を行って いる他、利用者に確認の下、冷暖房機を使用し温度調 整している。また、ホール内や居室の換気も利用者 に確認の上、窓の開閉及び換気扇で行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール内及びトイレ内・浴室にも手すりは設置さ れている。また、利用者の希望にて居室やベット にも手すりの設置を行っている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室やトイレ、洗面所等の場所が分かるよ うにネームプレートや表札等を用いている。また、一 緒に移動し何が混乱の原因になっているか把握し、 片付けたり見えないようにしたり等の対応を行っ ている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	畑に作物を植えたり、草取りを行ったり等、また、 夏など天気が良い時には、外にベンチやテーブル を運び、ティータイム等を行い、利用者が楽しくそ の人らしい生活を送れるよう取り組んでいる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

残存機能を活かし、出来る事は積極的に行って頂き、その人らしく生活していけるように援助しています。また、利用者同士の関係がスムーズにいくようスタッフも間に入り、お互い助け合いながら、常に笑顔や笑いが絶えないように努めています。